

2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月26日

上場会社名 株式会社 アイフリーク モバイル
 コード番号 3845 URL <https://www.i-freek.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上原 彩美
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 三宅 公崇

TEL 03-6274-8901

四半期報告書提出予定日 2020年8月26日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	571	79.5	122		111		98	
2020年3月期第1四半期	318	33.0	50		43		42	

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 98百万円 (%) 2020年3月期第1四半期 42百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	5.75	
2020年3月期第1四半期	2.67	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	1,138	285	24.7	16.48
2020年3月期	1,147	383	33.0	22.24

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 280百万円 2020年3月期 378百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計) 通期	3,881	132.9	12		11		8		0.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

第2四半期累計期間の業績予想については、業績管理を年次のみで行っているため、記載を省略しております。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	17,145,678 株	2020年3月期	17,145,678 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	108,037 株	2020年3月期	108,037 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	17,037,641 株	2020年3月期1Q	16,033,838 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	5
第1四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令され、経済活動や個人消費が大きく縮小し、宣言解除後におきましても景気および先行きは極めて不透明な状況となっております。

このような状況の中、当社グループは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため在宅勤務などの体制を構築しながら、モバイルコンテンツや電子絵本等のサービスを提供する「コンテンツ事業」とWebコンテンツ制作やシステム開発の受託事業及び派遣事業を行う「コンテンツクリエイターサービス(CCS)事業」の2つの事業をベースに、各事業における課題に積極的に取り組みながら安定的な収益基盤の確保とさらなる収益の向上に努めました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は571,756千円(前年同四半期比79.5%増)、営業損失は122,600千円(前年同四半期は50,607千円の営業損失)、経常損失は111,181千円(前年同四半期は43,612千円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失は98,047千円(前年同四半期は42,811千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<コンテンツ事業>

コンテンツ事業におきましては、アプリ「森のえほん館」「なないろえほんの国」の電子絵本事業、親子向けYouTubeチャンネル「Popo Kids(ポポキッズ)」を中心に、有志のナレーターを募り実施した特別絵本動画配信やUUUクリエイターとの絵本読み聞かせ動画の企画といった、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた親子向けの施策を実施いたしました。特に公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへ当社グループの絵本作品を提供し、多くの著名人に読み聞かせいただいた企画「#SaveWithStoriesキャンペーン」はTVや新聞等多くのメディアに取り上げていただき、大きな反響を得ることができました。また、アプリ「森のえほん館」につきましては、ユーザーの意見を取り入れお試し読み機能を搭載するアップデートを実施いたしました。その他ファミリーコンテンツにつきましては、新型コロナウイルスの影響により親子で過ごす時間の増えたユーザーの支持を受け、「赤ちゃんタッチ」「はじめてのきせかえ」といった知育アプリ群のダウンロード数が順当に伸びております。

Challet(チャレット)事業では、企業向けサービスであるChallet for businessの新機能「Chat Sheet」を子会社のリアリゼーション株式会社と共同開発いたしました。スマートフォン端末1台で表計算シートの閲覧や編集、送受信を行うことが可能で、今回搭載した勤務表の作成をはじめ、従業員の勤怠管理等に利用することができます。所謂コロナ禍において注目される、在宅勤務等の新しい働き方にも対応できるサービスとして、今後も機能の拡充を行う予定です。

また、富士通クラウドテクノロジーズ株式会社の「ニフクラ mobile backend」と実施しているプロダクトパートナーの取り組みとして、子会社の株式会社アイフリークスマイルズの運営するクリエイターネットワークサービス「CREPOS」と連動した、作品投稿企画「アプリデザインEXPO2020」第一弾で集まった48点の作品を公開し、クリエイターと企業との橋渡しとなるような企画にすべく、第二弾実施へ向けて準備を進めております。

「デココレ」「photodeco+」につきましては、前年同期比では収益がやや落ち込んだものの、定期的なコンテンツの更新やキャンペーンの実施など、既存会員向けの施策を中心に取り組みを進めております。

これらの結果、コンテンツ事業の売上高は64,611千円(前年同四半期比31.8%減)、セグメント利益は12,574千円(前年同四半期比266.1%増)となりました。

<コンテンツクリエイターサービス(CCS)事業>

コンテンツクリエイターサービス事業におきましては、緊急事態宣言発令による顧客企業の営業活動の自粛に伴う受注案件の減少は避けられず、案件獲得への影響が顕在化いたしました。

このような状況の中、収益性や成長性の確保に向けて、事業部をビッグデータ、AI、RPA、IoT、ブロックチェーン等のテーマ別に編成し、インフラ関連等の活況な分野を中心に技術者を提供するとともに、各事業部にかかる最先端の情報、技術力及びノウハウを獲得するため、最適な協業先の開拓に努めました。また、採用に関しては、新型コロナウイルスの影響による企業の採用活動縮小により、技術者採用の難易度に軟化傾向が見られ、営業活動の他にも採用活動や所属する技術者の教育に注力いたしました。

今後も様々な企業との業務提携及び資本提携等の連携関係の構築を視野に、新たな事業・収益機会を模索してまいります。

これらの結果、CCS事業の売上高は507,145千円(前年同四半期比126.6%増)、セグメント損失は70,441千円(前年同四半期は404千円のセグメント利益)となりました。

(注) 製品名及びサービス名は商標又は登録商標です。

(2) 財政状態に関する説明

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3,138千円(0.3%)減少し、976,830千円となりました。これは主として、仕掛品が101,166千円増加する一方、現金及び預金が2,209千円、売掛金が142,098千円、未収入金が1,123千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて5,506千円(3.3%)減少し、161,757千円となりました。これは主として、無形固定資産が6,011千円減少したことによるものであります。

以上の結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて8,644千円(0.8%)減少し、1,138,588千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて89,880千円(12.0%)増加し、840,044千円となりました。これは主として、未払金が14,394千円、未払費用が16,887千円減少する一方、未払消費税等が36,050千円、前受金が87,958千円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて478千円(3.6%)減少し、12,626千円となりました。これは主として、長期預り保証金が411千円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて89,402千円(11.7%)増加し、852,671千円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて98,047千円(25.5%)減少し、285,916千円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失を98,047千円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年6月12日に公表しました通期の業績予想につきましては、現在のところ数値に変更はありません。今後、変更が生じる場合は、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	280,186	277,976
売掛金	456,002	313,903
仕掛品	167,946	269,113
前払費用	17,725	52,830
未収入金	31,521	30,397
その他	26,724	32,697
貸倒引当金	△137	△88
流動資産合計	979,968	976,830
固定資産		
有形固定資産	14,516	15,145
無形固定資産		
のれん	114,211	108,200
無形固定資産合計	114,211	108,200
投資その他の資産	38,535	38,411
固定資産合計	167,264	161,757
資産合計	1,147,232	1,138,588
負債の部		
流動負債		
買掛金	43,683	35,668
短期借入金	123,738	123,738
未払金	63,909	49,514
未払費用	202,674	185,786
未払法人税等	23,273	21,977
未払消費税等	124,912	160,963
前受金	80,755	168,714
預り金	82,390	90,683
その他	4,825	2,996
流動負債合計	750,163	840,044
固定負債		
長期預り保証金	6,275	5,863
繰延税金負債	1,218	1,208
資産除去債務	4,958	4,963
その他	652	590
固定負債合計	13,104	12,626
負債合計	763,268	852,671
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,168,615	1,168,615
資本剰余金	1,168,620	1,168,620
利益剰余金	△1,956,312	△2,054,359
自己株式	△2,035	△2,035
株主資本合計	378,888	280,841
新株予約権	5,075	5,075
純資産合計	383,964	285,916
負債純資産合計	1,147,232	1,138,588

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	318,506	571,756
売上原価	224,351	455,745
売上総利益	94,154	116,011
販売費及び一般管理費	144,761	238,611
営業損失(△)	△50,607	△122,600
営業外収益		
業務受託料	330	11,471
保険解約返戻金	6,080	—
その他	1,318	233
営業外収益合計	7,728	11,704
営業外費用		
支払利息	277	286
為替差損	241	—
その他	216	—
営業外費用合計	734	286
経常損失(△)	△43,612	△111,181
特別利益		
新株予約権戻入益	1,959	—
債務免除益	—	13,868
特別利益合計	1,959	13,868
税金等調整前四半期純損失(△)	△41,653	△97,313
法人税、住民税及び事業税	1,158	742
法人税等調整額	—	△9
法人税等合計	1,158	733
四半期純損失(△)	△42,811	△98,047
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△42,811	△98,047

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純損失(△)	△42,811	△98,047
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	△42,811	△98,047
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△42,811	△98,047

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルスの感染拡大は、経済や企業活動に広範な影響を与える事象ではあり、当社においても案件獲得への影響が顕在化しましたが、現在はインフラ関連等活況な分野を中心に改善の兆しがみられており、2021年3月期末までには回復することを見込んでおります。よって前連結会計年度に置いた仮定から重要な変更はなく、前連結会計年度と同様の仮定に基づき、連結のれんの評価を行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、実際の推移が上記仮定と乖離する場合には、将来の財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)2
	コンテンツ事業	コンテンツクリエイ ターサービス事業			
売上高					
外部顧客への売上高	94,700	223,806	318,506	—	318,506
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	94,700	223,806	318,506	—	318,506
セグメント利益	3,435	404	3,840	△54,447	△50,607

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)2
	コンテンツ事業	コンテンツクリエイ ターサービス事業			
売上高					
外部顧客への売上高	64,611	507,145	571,756	—	571,756
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	64,611	507,145	571,756	—	571,756
セグメント利益又は 損失(△)	12,574	△70,441	△57,866	△64,733	△122,600

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

新株予約権の行使

当社が発行いたしました第15回新株予約権につき、2020年8月21日に、以下のとおり行使されております。

行使新株予約権個数	352個（発行総数の14.1%）
交付株式数	352,000株
行使価額総額	99,968千円
未行使新株予約権個数	1,453個
増加する発行済株式数	352,000株
資本金増加額（注）1、2	50,478千円
資本準備金増加額（注）1、2	50,478千円

（注）1. 資本金増加額、資本準備金増加額には新株予約権の振替額989千円がそれぞれ含まれております。

2. 上記の新株予約権の行使による新株の発行の結果、2020年8月21日現在の発行済株式総数は17,497,678株、資本金は1,219,094千円、資本準備金は1,209,094千円となっております。